

## 令和元年度 3月定例記者会見 会見録

日時 令和2年3月23日(月)午後2時00分～2時50分

場所 市役所2階第1特別会議室

(市長)

はじめに、3月13日に閉会いたしました令和2年市議会定例会の3月定例会議についてでございます。

新型コロナウイルス感染症への職員の対応を万全とするため、議会のご判断により、一般質問を取りやめ、会期を短縮し、2月13日からの30日間でご審議いただきました。令和2年度当初予算案をはじめ、国のGIGAスクール構想に伴う、児童・生徒に一人1台のタブレット端末を整備する経費や、新型コロナウイルス感染症対策のための補正予算案など、提案いたしましたすべての案件につきまして、ご議決をいただきました。議員の皆様からは、(仮称)相模原市行財政構造改革プラン策定に向けた取組や、麻溝台・新磯野第一整備地区土地区画整理事業の検証、令和元年東日本台風からの復旧・復興に関すること、SDGs推進への取組など、多岐にわたる質疑等をいただきました。

令和2年度は、市にとりまして、行財政構造改革に取り組む、厳しい年になると思っておりますが、引き続き、市民の皆様にご協力いただき、しっかりと歩みを進めてまいりたいと考えております。

次に、世界中に拡大しております新型コロナウイルス感染症に関する本市の状況についてでございます。新型コロナウイルス感染症につきましては、本市におきましても、3月22日(日)時点の集計で、27名の感染が確認されており、そのうち2名の方がお亡くなりになりました。お亡くなりになりました方のご冥福を心からお祈りするとともに、ウイルスに感染し症状に苦しんでいる方に、お見舞いを申し上げ、一日も早く完治することを願っております。本市では、2月中旬から感染者が増え始めたことを受け、感染拡大防止のために各種イベントの中止や、小中学校の臨時休業、206の公共施設の休止など、これまでにない緊急の対応を進めてまいりました。また、3月19日(木)からは、今後の国の動向や各種情報の収集、市の支援体制等の整備に向けた検討及び準備が必要となることから、産業政策課内に「地域経済対策班」を設置したところです。本市における、新たな感染者の確認については、ペースが緩やかになってきており、感染が確認された方のうち、11名が回復されましたが、まだ予断を許さない状況にあると思われまます。市といたしましては、引き続き、しっかりと情報の収集に努め、市民の皆様へ、最新かつ正確な情報を迅速にお伝えし、少しでも不安を取り除けるよう取り組んでまいります。また、感染拡大防止に向けましては、市内企業にもご協力をいただいております。相模原市印刷広告協同組合では、感染予防を啓発するポスター約5千枚を、自費で制作いただき、市内の小中学校や自治会掲示板に、掲出する予定と伺

っております。また、市役所の庁舎内にも掲示させていただき、職員一人ひとりにも取組を徹底してもらいたいと考えております。この場をお借りしまして、取組のご紹介と啓発へのご協力に対し、お礼を申し上げます。

次に、私の政策にも掲げておりますICTやSNSを活用した行政サービスの取組について、申し上げます。

はじめに、さがみはらファンサイト「Sagamihara FAN FUN FAN」の開設についてでございます。本市の多彩な魅力や多くの資源を、市民の皆様にも再認識いただき、市への誇りや共感、愛着を醸成することを目的に、明日、3月24日(火)から、インターネット上にサイトを開設します。この事業は、シビックプライドの醸成に向けた取組として、9月補正予算で予算を計上し、開設の準備を進めてきたものでございます。サイトには、市内のイベントやエリアニュースなど、思わず拡散したくなる情報を掲載するほか、相模原市の魅力を撮影した写真を投稿できるなど、市民の皆様一人ひとりが、さがみはらファンとして本市の魅力を発信できます。例えば、相模の大風まつりをあまり知らない方に、大風まつりの写真を掲載することで、市の魅力の再認識や新たな発見のきっかけになればと考えております。また、本市にちなんだ問題に答えていただく「さがみはら検定」で7問以上正解することや、魅力的な写真を投稿いただくことなどで、プレゼントキャンペーンへの応募ポイントも貯まります。多くの皆様にファンサイトへご登録いただき、より相模原市を知ってもらい、一層好きになっていただきたいと思います。

2つ目に、SDGs特設サイトの開設についてでございます。特設サイト「SDGs one by one」では、SDGsに詳しい「えすでーちーず君」とSDGsをあまり理解していない「サラリーデイズ君」の二人が掛け合いをしながら自分に何ができるのかを紹介してまいります。記者の皆様にも、ぜひご覧いただきたいと思います。SDGsの達成に向けては、市民や企業等と一丸となった、全市的な取組を行う必要があります。そのためには、市民一人ひとりに理解を深めていただくことが重要であると考えております。市では、これまでも、市ホームページや広報紙、ラジオ番組による情報発信や市民まつりへの出展、フォーラムやシンポジウムの開催など、市民の皆様に分かりやすい周知啓発に努めてまいりました。明日、3月24日からは、インターネット上で、相模原SDGs特設サイトを開設いたします。サイトでは、SDGsや17のゴールの解説、日常生活においてできる取組の紹介、SDGsに取り組む市民や企業、NPO法人などの団体の紹介等を行ってまいります。SDGsについて、よくわからないという方や、市内でどのような取組がされているのか知りたいという方などは、ぜひ閲覧いただければと思います。また、4月からは、市役所本館1階ロビーに、SDGsの展示コーナーも設置いたしますので、こちらも合わせてご覧いただきたいと思います。

3つ目に、市民通報アプリ「パッ!撮るん。」についてでございます。これまで、道路に空いた穴や、カーブミラーの破損など、道路における不具合を、お手持ちのスマートフォンなどで撮影し、位置情報とともに、メールで市に通報いただく、道路通報用のアプリとして、平成27年1月から

運用しており、今年1月末までの集計で、2,576件の通報をいただき、2,396件の対応が完了しております。本日、3月23日からは、市民通報アプリ「パッ！撮るん。」として、リニューアルいたしました。新たなアプリでは、これまでの道路破損状況などに加え、公園遊具の破損状況、公道上に放置されている自転車、下水道施設の豪雨時の増水による危険箇所など、通報対象範囲を拡大することで、多くの市の施設等の不具合の把握・対応が迅速に行うことができ、事故等の未然防止にもつながります。この取組は私も市長就任前から、市民の皆様と対話を行えるツールとしても、非常に良いものと思っておりました。他の自治体でも参考にしようと、議会等の視察も多くあると聞いております。これまで以上に多くの方にアプリをご利用いただき、施設の不具合等への迅速な対応にご協力をお願いいたします。

また、4つ目として、既に発表済みの内容ではありますが、市では、市民に身近な情報を分かりやすく集約した市のLINE公式アカウントを本日、3月23日に開設いたしました。市民の関心が高い、ごみの分別や行政手続きなどの疑問にAIが答えるサービスや、市からのお知らせやイベント、防災・防犯に関する情報など、欲しい情報を選んで受け取れるサービスのほか、新型コロナウイルス感染症に関する情報も、提供させていただいております。スマートフォンで手軽に情報を得ることができますので、ぜひ、多くの皆様に登録いただければと思います。

その他にも、先週3月19日(木)から、オムツ交換のできるトイレや授乳室などの子育て支援施設を、パソコンやスマートフォンで検索することのできる「相模原市子育てMAP」を市ホームページ上に開設しました。子育て世代にやさしい設備やサービスのある施設を、一覧や地図上で確認することができる便利なMAPとなっておりますので、お子様を連れた外出時にご活用いただきたいと思います。

最後になりますが、就職氷河期世代を対象とした職員採用試験の実施についてでございます。本市におきましては、令和2年度に、1990年代前半のバブル経済崩壊後の、いわゆる就職氷河期に新卒者となられた方を対象とした職員採用試験を実施することといたしました。採用試験を行う職種は、事務5名程度のほか、環境整備員7名程度、保育調理員1名程度、道路技能員2名程度を予定しております。受験資格は、令和2年4月1日現在で、34歳から49歳までの年齢の方で、学歴・経験は不問といたします。募集要項等は改めてお知らせしてまいりますので、我々とともに、72万市民のために一緒に働きたいという方は受験いただき、一緒に未来の相模原をつくる力となっていただきたいと思います。

私からは以上でございます。

(記者)

オリンピックに関してですが、今日の午前中に首相が開催時期の延期の可能性を言及しましたが、相模原市では、自転車ロードレース競技の開催に向け取り組んでいますが、延期について、市長の考え、今の気持ちをお伝えいただけますか。

(市長)

3月22日にI O Cがオリンピック競技大会の延期を含めた議論の開始について発表したと承知をしております。今、記者から話がありましたが、本日、午前中の国会の予算委員会での、安倍総理の答弁の中でも、東京オリンピック・パラリンピックの延期を容認する考えを表明されたと同っております。本市といたしましては、6月30日の聖火リレーとセレブレーションのほか、事前キャンプやテストキャンプ、7月25日、26日の両日に行われます自転車ロードレース競技の開催に向け準備を進めております。関連予算の執行時期などについて見定めなければなりません、これまでどおり7月にオリンピック、パラリンピックが開催されるということ念頭に置いて準備を進めてまいりたいと考えております。I O Cの正式な判断が下るまでは、開催の方向だと信じて対応していきたいと考えております。

(記者)

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け休校している小・中学校の再開について、どのように考えていますか。

(教育長)

相模原市の小・中学校につきましては、感染拡大防止という観点で、3月2日から25日まで休校としているわけですが、国における今月19日の専門家会議や20日の国の対策本部の中でも、学校の再開に向けて、文部科学省が近日中に通知を出すというお話ですので、その通知を見ながら判断していきたいと考えております。ただ、再開に向けては、授業の進め方や教室の換気など、様々な課題が出てくるものと承知しております。

(記者)

新型コロナウイルス感染症について、相模原市の状況は大分落ち着いてきたようにも思われますが、公共施設の再開についてどのように考えていますか。

(市長)

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に関しては、市民の皆様の安全・安心を第一に、小・中学校の休校や、206の公共施設を休止するなど対応を行ってきました。しかし、多くの市民の皆様からは、早く施設を使って体を動かしたい、対話を行いたい等、様々なご意見もいただいております。感染の状況については、冒頭に申し上げましたとおり、現在、本市では27名の感染者がおりますが、市の保健所では、3月22日までの集計で1,181件のPCR検査を実施しており、積極的に疫学調査に取り組んできた結果、感染が緩やかな状態になっていると捉えております。今後、感染の状況についてしっかりと見極め、施設の再開についても、市民の皆様にご利用いただける環境を整えていきたいと考えております。

(記者)

来月で令和元年東日本台風から半年が経ちますが、まだ、国道413号も一部通行止めが続いています。自転車ロードレース競技のコースにもなっている国道413号ですが、オリンピックを通常のスケジュールで行うのであれば、いつ頃供用されるのでしょうか。

(市長)

昨日、私も国道413号を視察しました。3月末の供用開始に向けて、着実に対応されていると思います。まだ日付は言えませんが、3月末には国道413号も通常通りの供用が開始できるものと考えており、オリンピック開催に向けた環境づくりも整ってくるのではないかと思います。

(記者)

本日、カナダのオリンピック委員会が、今年中にオリンピックが開催される場合は、選手団を派遣しないという方針を明らかにしました。相模原市は、カナダのボートチームの事前キャンプ地になっておりますが、カナダのオリンピック委員会の方針を受け、今後の対応等、市長の考えを教えてください。

(市長)

本日、カナダのオリンピック委員会から、今年中にオリンピックが開催された場合、参加を見送るという表明があったと伺っております。ほかにも、アメリカの水泳チームなども、出場に関して慎重な意見が出始めており、非常に大きな決断をされたと思っております。カナダという約300人の選手団を送り出している国の、ボートチームの事前キャンプを受け入れる本市にとって、このことは、非常に大きな問題だと思っております。オリンピックは平和の祭典であり、世界各国の皆様が安心して参加いただける環境が非常に大事だと思っております。そういった意味ではカナダのオリンピック委員会が決断した内容は、非常に重いものと思っております。

(記者)

事前キャンプの受け入れに向け準備をされた方々も多くいらっしゃると思います。カナダのボートチームが本当に来ないということになった場合、そのことを市長はどのように受け止めますか。

(市長)

市民や市内企業、各団体、市議会の皆様、市職員が一緒に取り組んできました。昨年の夏にカナダボートチームのテストキャンプを受け入れた際も、藤野地域や相模湖地域の皆様と一緒に、非常に盛り上がりました。特に相模湖地域は1964年の東京オリンピックが開催され、聖火リレーも行われた地域でございます。やまゆり園の事件があった地域でもありますので、共生社会の実現という意味で、多くの皆様がこの地に訪れていただき、オリンピックを体感していただくことが、非常に大事だと思っております。カナダチームが来ないということは、非常に残念な話であり、1日も早く新型コロナウイルスが終息し、世界中の方が安全で安心して各国に渡航できるような環境をつくっていかねばならないと思っております。本市職員もオリンピック・パラリンピックの開催に向けて一生懸命頑張ってきましたし、ここまで残してきた成果について感謝しております。

市民の皆様と一緒に作るオリンピックという意味では、本市は聖火リレーやセレブレーションの会場にもなっております。ぜひ、安心・安全な環境の中で、一国たりとも欠けることなく開催できればと思っております。

(記者)

もし、オリンピックが開催できず来年に延期となった場合、カナダのボートチームには引き続き来てもらえるように働きかけは続けていくのでしょうか。

(市長)

カナダとのご縁は、引き続きつなげていきたいと思っております。昨年、私は友好都市であるトロントに行き、ボートチームの代表の方とお会いしてきました。これまでに本市とカナダが築いてきた関係は続いてほしいと思っております。また、スポーツ課や野村前教育長らもブラジルに事前キャンプやテストキャンプの誘致にも行ったということもあり、ブラジルに対しても同じような思いを持っています。カナダやブラジルの皆様に、本市でキャンプを行っていただき、世界最高レベルのスポーツを市民の皆様に体感していただけるような機会をつくっていきたく思います。今の小学生や中学生が、20年、30年後に大人になったとき、ブラジルの女子サッカーチームの選手と対話したことや、ボールを蹴りあったことなど、交流したことは一生涯の財産となると思っております。カナダをはじめブラジル、その他の国の皆様にも相模原市にお越しいただき、ぜひ、テストキャンプ、事前キャンプを行っていただきたいという思いでございます。

(記者)

カナダチーム、ブラジルチームが、事前キャンプやテストキャンプを見送るという話は、今のところありますか。

(市長)

まだ、正式なオリンピックへの出場権は得られていないのですが、ブラジルの飛込チームが、本来であれば4月21日から26日まで東京で行われる予定であった国際水泳連盟の飛込ワールドカップに出場するのに合わせ、相模原グリーンプールでテストキャンプを行う予定でしたが、大会が延期になったことにより、テストキャンプを中止したと伺っております。

(記者)

ブラジル代表の飛込チームから通達があったということですか。

(市長)

先ほども話しましたが、まだオリンピックへの出場権は獲得していないのですが、ブラジル代表の飛込チームからテストキャンプを中止する話がありました。

(記者)

いつ通知があったかわかりますか。

(市長)

3月21日です。ブラジルオリンピック委員会からテストキャンプ中止の連絡が入ったと伺って

おります。

(企画財政局長)

詳しい日程は決まっていないということですが、国際水泳連盟の大会開催を6月に延期したという話が出ているようです。

(市長)

国際水泳連盟が4月21日から東京で開催する予定であった大会が6月に延期になったことで、大会に合わせてテストキャンプも延期したのだらうと思います。

(記者)

学校については、文部科学省から出る通知を見ながら判断していきたいということでしたが、これまでに市では入学式の実施については方針を示していますが、これも通知を見ながら変更することもあるのでしょうか。

(教育長)

現段階では、入学式はそのまま実施しようと思っております。その後の授業などについてどうするかということについては、通知を見ながら判断していきたいと考えております。入学式などの儀礼的な行事については、小学校については保護者1名のみ、中学校については生徒のみで実施してまいりたいと考えております。

(記者)

先ほど市長からオリンピック関係予算の執行時期を見定めるというお話がありましたが、具体的にどのような予算をどのように見定めるのでしょうか。

(市長)

例えば、3区において、オリンピック・パラリンピックの機運醸成のために商店街等に掲出する旗や、自転車ロードレース競技大会でシティドレッシングと言って、大きなポスターを壁面に貼る予定などがありますが、そうした予算の執行についてはオリンピックの開催時期をしっかりと見定めたいと、判断したいと考えております。

(記者)

本来ならばすぐに実行する事業であり、予算も執行すべきだが、オリンピックが予定どおり行われるかはっきりしないので、その点を見定めてから判断するというのでしょうか。

(市長)

来年度予算の執行に関することですので、来年度になった段階で、時期を見て対応してまいりたいと思います。

(記者)

仮にオリンピックが延期になった場合に考えられる、課題や悪影響はありますか。

(市長)

選手の皆様は、東京オリンピック・パラリンピックが予定通り開催されるものとして、調整をされていると思います。現在ピークを迎えている選手にとっては、開催が遅れた分だけ、歳をとることになり、体力的にも衰える心配があります。また、1964年大会以来、本市における2度目の聖火リレーやセレブレーションの開催など、オリンピックに向けた市民の皆様の機運も高まってきている中で、延期することになると残念です。昨年7月21日の自転車ロードレース競技のテストイベントでは、沿道に1万人以上の観客が訪れ、600名以上のボランティアにも参加いただくなど、多くの市民の皆様の自転車ロードレース競技大会に対する思いや、事前キャンプやテストキャンプの受け入れについても、ノジマステラとブラジルのサッカーチームがゲームをするという話も伺っており、市民の皆様の士気が上がってきたと感じているところです。万が一、延期の判断がなされた時には、本市としては市一丸となって次の大会を迎えられるように応援を続けていきたいと思っております。

(記者)

新型コロナウイルス感染症の拡大における景気対策のため、消費税の減税や一人当たり10万円を配るといった話も出ているようですが、そのことに対してどのように思われますか。

(市長)

国の対策としては、これまでも給付型の支援ということを実施してきたこともあり、アメリカにおいても大規模な給付型の支援をとられるようです。しかし、これまでにありました給付型の制度は、なかなか効果があがっていないと感じております。国が最終的に決められることでありますが、給付型の支援策は経済が浮上するきっかけになるのかという疑問はあります。

(記者)

減税策をとるべきということですか。

(市長)

減税も一つの手段だと思っております。私も市内のあちらこちらで話を聞いておりますが、飲食店のお客様が減っているという話や、バス会社ではバス旅行が中止になったという話などを耳にしております。私も近日、飛行機に乗る予定があるのですが、航空業界やホテル業界も非常に厳しいと聞いております。あらゆるところに経済的な影響が出ておりますが、給付型の措置で景気を良くするというよりも、イタリアで起こっているような医療崩壊につながらないように、医療的なケア等を、もっと積極的に行っていくべきではないかなと思っております。

(記者)

ファンサイトやSDGsの特設サイトの開設など、ICTやSNSを活用した取組を集中的に打ち出されておりますが、タイミング的に何か意図していることがあるのですか。



(市長)

発表のタイミングが、偶然にも重なってしまいました。私は市長に就任する前から、ICTやSNS、AIを活用した取組は、もっと積極的に行っていくべきでないかと思っておりました。昨年4月22日に市長に就任して以降、シビックプライドという言葉をもっと多くの市民の皆様へ発信するためには、どうすべきか考えてまいりました。市では月2回の広報紙を発行しておりますが、6割程度の市民の方にはしか届いておりません。例えば、広報紙の発行回数を月1回にすることで全戸配布ができないだろうか等、広報課に検討を指示してあります。今回、開設しましたLINE公式アカウントについてですが、政令指定都市では、本市を除く19市のうち13市で導入済みであり、既に多くの市でLINEの公式アカウントは活用されております。様々な情報発信ツールがありますが、圧倒的に利用者が多いLINEをなぜ使わないのかという強い思いがあり、市長になり、積極的なLINEの活用を訴えてまいりました。4月からは、管理職の一部で試験的にLINE WORKSを利用し、情報共有を行ってまいります。

昨年9月に補正予算を計上し、取り組んできた、本市のファンサイト「Sagamihara FAN FUN FAN」も開設いたしました。SDGs特設サイト「SDGs one by one」につきましても、魅力のあるサイトに仕上がっていると思います。SDGsという言葉は聞いたことがあっても、どのような取組がされているのかを知らない市民の方が多く、市民一人ひとりにできることをもっと知っていただくため、SDGsに取り組む市民や企業、団体の紹介や、市民一人ひとりができることも案内しております。

「ぱっ！撮るん。」については、私も国会議員の時代から注目してきた取組であり、これまでに受けた2,576件もの通報に対応してまいりました。リニューアルした「ぱっ！撮るん。」では、例えば老朽化した公園の遊具や公園の破損状況、下水道の増水時の危険箇所などを通報できます。普段から市の職員も一生懸命地域を歩いて点検を行っておりますが、市民の皆様からの生の声を上げていただくことで、より安全で安心なまちがつくられていくのではないかと思います。

そのほか、「子育てMAP」ですが、市長選挙中にも市民の皆様から600件近くの提案をいただいた中で、その中に「子育てMAP」があり、私の公約の一つにさせていただいたものです。例えば、お子さんを連れて公園に行った時、子どもを連れて入れるトイレはどこにあるのだろうか、オムツ交換所はどこにあるのだろうか等の声を聞くこともあったので、このたび開設しました「子育てMAP」が多くの皆様に活用していただければと思います。まちかど市長室等で、子育て世代の方々とお話した際に、厚木市や町田市にある室内で子どもたちが遊べる場所を見てほしいという声もいただきました。そういった場所にも足を運び、子育て世代の皆様から子育てしやすいと言われるような相模原にしていかなければならないという思いも強く、子育てや教育に、今後も力を入れていきたいと思っております。ICTやSNSの活用については、今後も積極的に行っていきたいと思っております。

(記者)

新型コロナウイルスの感染症についてですが、先ほど市長からペースが緩やかになっていると話がありました。以前、フェーズが上がったという話を会見でされていましたが、現在、さらにフェーズが変わったと認識してよいのでしょうか。

(市長)

健康福祉局、保健所の職員の頑張りや、24時間体制でのコールセンターの対応などにより、市民の皆様の不安に対する声も少なくなってきたように感じております。また、多くの感染者が発生していた時と比べ、感染のペースも緩やかになってきたという認識もありますが、まだ予断を許さない状況であり、フェーズが変わったとは言えません。最近になり、ナイル川クルーズの参加者や本市で感染が確認された20代男性など、海外からの帰国者に感染が確認されるケースが全国的に出てきております。また、感染経路がはっきりと分からない方もいらっしゃいますので、引き続き、PCR検査の実施など、積極的な疫学調査を進め、市民の不安にもしっかりと答えながら、安全・安心を確保してまいりたいと思います。

(記者)

クラスターに関しては、落ち着いているという認識でよろしいですか。

(市長)

クラスターに関しては落ち着いていると思います。

(記者)

感染を抑え込めていると言えると思いますか。

(市長)

そう言えると思います。

(記者)

SDGsに関する取組について、市長がどのようなことに力を入れていくのか改めて教えていただけますか。

(市長)

SDGsの普及、啓発に関しては、私が市長に就任する前に、相模原青年会議所と協働推進宣言を行ったほか、市長就任後には津久井青年会議所とも協働推進宣言を行いました。昨年1月に日本経済新聞におきまして、SDGsに関する取組に関して第6位という結果が掲載されましたが、職員の認識や取組については非常に薄かったのではないかと感じております。SDGs未来都市についても昨年は落選し、今年、再度チャレンジしております。SDGsについては、所管の企画部の職員と打ち合わせをする中で、市民の皆様にSDGsをもっと知ってもらいたい、そのためには、私たち職員が知らなくてはならないという話も出ております。講習会やシンポジウムを通し、職員一人ひとりに理解してもらいながら、72万市民の皆様にも一緒になってできる取組を一つずつや

っていこうと呼び掛けています。私はよく、SDGsの講演の時に、10日後の賞味期限の牛乳と3日後の賞味期限の牛乳が売っていたら、どちらを選びますかという質問をします。すると、大抵の方は、期限が長い10日後の賞味期限の牛乳を選ぶと答えますが、賞味期限が短い牛乳を買ってもらうことでフードロスを減らすことができます。これも一つのSDGsの取組であります。また、私は釣りが好きですが、相模川に釣りに行った時に全てのアユを釣ってしまったら、他の人がアユを釣れなくなってしまいます。自分が食べる分だけ、必要以上に釣らないことが種の保存につながり、10年後、20年後もアユ釣りができるような相模川的环境整備につながっていきます。

以 上